

記録的大雨 生活圏、農業現場の広範囲に被害

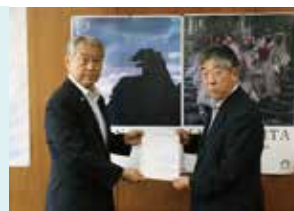
7月14日(金)から続いた大雨により、県内各地で72時間降水量が観測史上1位を記録しました。当JA管内では15日(土)に太平川(秋田市)、新城川(秋田市)、比詰川(男鹿市)、馬踏川(秋田市)が、16日(日)に岩見川(秋田市)が氾濫。住宅や車両、農業機械などの浸水や土砂災害が多発し、市街地や農地などの広範囲に被害が及びました。当JAは災害対策本部を立ち上げ、被害の全容の把握と早期復旧への支援を関係団体とともに進めています。



1、2、3 岩見川沿いの堤防が決壊し、三内地区の水田が大量の土砂や大木などで覆われた(秋田市河辺) 4 土砂崩れが発生して埋もれた水田(秋田市河辺) 5、6 太平川から溢れた濁流や流木などに押されて倒壊したハウス(秋田市太平) 7 川から氾濫した水流で農道や法面、田面が抉られた(秋田市太平) 8 木が根元から倒れて水田に横たわる(秋田市上新城) 9 冠水したダリアのハウス(秋田市上新城) 10 圃場が冠水して根が傷み枯れる小菊(潟上市天王) 11 雨水が大量に流れる農作業所(男鹿市脇本)



当JAは24日(月)に秋田市へ、26日(水)に男鹿市と潟上市へ、大雨被害への対策にかかる緊急要請書を提出。各市に生産現場の被害状況を説明し、早期復旧と被災農家の営農意欲の維持のため、被害の実態をふまえた支援を求めました。



25日(火)、農業被害が甚だしい同市太平地区、河辺地区を穂積志秋田市長が視察。農業現場の現状を目の当たりにし、「これまでの大雨とは比較にならないほどの深刻な状況を実感した」と話しました。



8月2日(水)にはJA全農全国本部から山田浩幹常務理事らが両地区を訪れ、当JAと被害の発生経過や復旧状況などを話し合いました。

当JAの施設のうち、秋田駅東支店で床上浸水が発生しましたが、復旧作業を行い、通常通り営業しております。敷地内のキャッシュコーナー(ATM)については、浸水による機器の交換とシステムの都合により、現在休止しています。管内の農業倉庫内の玄米などへの被害はありませんでした。

